

架け橋期のカリキュラム（竹田ブロック・5歳児）

期待する子ども像「夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子」

表の＊印は記録があるもの（別紙）

期・月		4・5月	6・7・8月	9・10月	11・12月	1・2・3月
望ましい 発達の姿		安心・安定感	自信・充実	自己発揮・協同		協同・期待
		新しい環境に慣れ、安心・安定感をもって生活する。	身近な環境に関わり、試したり考えたりして遊ぶ。	友達関係を深めながら、自分の力を十分に発揮して、遊び、生活する。	友達と共通の目的を見出し、工夫したり、協力したりする。	・学級全体の課題に取り組み、やり遂げた充実感を味わたり、就学への期待を持ち、成長を感じる。 ・生活に見通しを持ち、自分たちで生活を展開する。
園・所で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成		・生活の場づくり（ロッカー・靴箱など） 言・社 ・春の自然に触れる（虫探し・草花摘み） 自然 ・栗粉での遊び、ボディペインティング 思・感 ・興味を持ち考えたり試したりする（ツマグロヒョウモンの幼虫・カタツムリ・カブトムシ・亀の飼育） 自然 ・一人一鉢栽培 自然 ・一人一鉢栽培 自然 ・ルールのある運動的な遊び（しっぽとり・帽子取り等） 健・道・数 ・当番活動（飼育・給食の配膳・昼食時の挨拶） 自然・言・社	・砂や泥遊び、色水遊び、泡、氷、寒天、新聞紙、片栗粉での遊び、ボディペインティング 思・感 ・科学センター見学、ザリガニ釣り 自然 ・プール 健 ・じゃがいもなど夏野菜の栽培活動 自然・数 健・道・数 ・いろいろなごっこ遊び 自然・言・社	・体を動かす遊び、ルールのある遊び 健・道・言・数・自立 （リレー・竹馬・しっぽとり等） ・栽培物の収穫と調理、パーティ、お店屋さんごっこなど 自然・協・数・言・社 ・共同製作、絵画、製作活動等・歌や仲良し遊び、楽器遊びなど 感 ・秋の自然を取り入れて遊ぶ 自然・思 ・クッキング（ご飯・味噌汁） 健 ・お茶会体験（幼） 社・感 ・生活発表会(保、劇遊び・和太鼓) 協・感・言・感 ・マラソン 健・数	・正月の遊び 数・思・道・自 ・生活発表会（幼） 協・感・言 ・修了に向けての活動 感・社 （お別れ遠足・記念製作） ・小学生との交流 社 ・当番活動の引継ぎ 社・協	
安心・安定感を土台に	つながり	幼児	・年長児になったことを喜び、いろいろな友達や先生と関わって遊ぶ楽しさを感じる。 ・新しい保育室に慣れる。 ・友達とイメージを膨らませてドキドキワクワクするような活動を取り入れる。＊1	・友達と考えを出し合い、相手の思いを分かろうとし、遊びを進めようとする。 ・友達とイメージを広げながら遊んだり、年下の友達と関わったりすることを楽しむ。＊4 ・色水では自然物の特徴を知ったり、色の変化を楽しむだりする。	・運動会や収穫物を使ったパーティ、お店屋さんごっこなど、共通の目的に向かって、一人一人が力を出し、達成する喜びを感じる。 ・いろいろな素材や遊具を工夫して使い、友達と一緒に遊びに使うものをつくったりかいたりすることを楽しんだり、歌や楽器遊びなどの表現活動を楽しむ。 ・グラウンドでコーナーを作り、運動会の遊びを異年齢で楽しむ。 ・年下の友達など相手の立場に立って言葉をかけて関わろうとする。＊13	・友達と共通のイメージを持ち、相談しながら遊びに必要な場を構成したり、必要なものをつくったりする。 ・遊びや生活を振り返り、自分の成長を感じ、さまざまな人への感謝の気持ちを持つ。 ・小学生と（DVDなどで）交流し、就学に期待する。
		援助	・教師も共に遊び、一人一人の思いを受け止め信頼関係を作る＊2。一人一人の安定する場所をつくるとともにそれをつないでいく（大積木の家）。 ・グループやクラスで話し合う機会を持ち、教師が橋渡しをしながら互いの思いや考えを出し合えるようにする。＊3	・一人一人の思いを受け止め、周りの幼児に伝える。時には子どもの気持ちを教師が言語化して子ども同士聞かれるようにする。＊5 ・友達と相談したり、手伝ったりする機会を設け、友達の考えに触れたり、友達・自分の良さに気づいたりできるようにする＊6	・仲間がいるからこそその遊びの楽しさを感じたり、気付いたりできるように、言葉かけをしながら関わる。 ・共通の目的に向かって遊びを進める充実感が味わえるように、友達と考えや思いを出し合う姿を認める。	・一人一人の姿を認め、自分の力を発揮できるように励まし、自分もクラスの仲間であることの喜びを感じたり、友達の良さを認めたりできるようにする。
		環境	・マークシールを決めたり、新しい保育室の場に慣れ、自分たちで生活の場を整える気持ちが持てるようにする。 ・安定する場所、遊びの拠点となる場所やものの配置など工夫し、友達を感じられるようにする。	・遊びの振り返りでは、写真や動画を見て、イメージが共有できるように ICT 機器を用いる。 ・保育室で炊飯し、ご飯が炊けるにおいやお米の変化に気づけるようにする。	・チーム意識が高まるように、メンバーを固定したり、毎日の結果がわかるような表を作ったりする。＊12 ・見通しや期待をもって活動に取り組めるように、クラスで考えた必要なものなどを見える場所に掲示したり、図を見て話し合ったりする（＊13ポップコーンパーティ）。 ・友達がつくったりかいたりしたものを見て、よさに気付き認め合う時間を持つ。	・子どもたちが選んだ生活や遊びの場面を撮影した DVD と、小学校生活の様子の DVD を交換するなど、交流の機会を設定する。
	主体性	幼児	・様々な素材や材料に親しみ、心を開放させて遊ぶ。 ・グループの友達と相談する機会を持ち、動物当番や昼食時の当番をする。	・友達と共通のめあてをもって遊びを進めていく楽しさを感じる。＊7 ・ごっこ遊びでは役になりきって、自分で言葉を考えて友達とやり取りをする。＊7	・みんなで考えた遊びや生活のルールを、必要感を感じて守ろうとする。 ・友達と力を合わせる遊び、勝ち負けのある遊びを通して自分と向き合うことにより葛藤する。さまざまな運動遊びに興味を持ち意欲的に取り組む。 ・パーティやお店屋さんごっこなどの取組で、数字・文字・標識などに関心を持ち、活動に取り入れる。	・自分の役割をもって行動し、役割を果たす喜びを感じる。 ・絵本やお話を聞いてイメージを膨らませ、登場人物になりきって表現したり、気持ちを考えてせりふを言ったりして、友達や先生と劇遊びを楽しむ。
		援助	・年長児になった喜びに共感し、自ら活動しようとする意欲を受け止める。 ・遊びの継続性を大事にするため、グループで時差をつけて給食を食べ始められるようにする。	・身近な自然物や生き物と触れ合う機会を多くし、子どもが興味をもったものや疑問に感じたことを追求したり、継続して成長を見たりすることができるようにする。＊8 ・一人一人がめあてを持ち、意欲的に取り組んでやり遂げるよう、自ら動く姿を見守り必要な時を見極めて援助する。＊9	・自分たちで作ったルールで遊ぶ姿を認め、ルールを守って遊ぶ楽しさに気付くようにする。 ・竹馬などの運動遊びでは個人差に配慮し、自分のペースで取り組み、自信がもてるように認め励ます。 ・困っている時は「どうする？」と投げかけて子ども自身が計画を考え、自然に活動が進むように声をかける。＊13 ・和太鼓やハンドベルの楽譜は音の高さや左右など見てわかりやすくして、やりたいときに子ども同士で楽しめるようにする。	・友達と意見がぶつかったときは、納得して折り合うことができるように、子ども同士で解決する姿を見守る。
		環境	・見通しをもって生活できるように、絵カードを用い、一日の流れを分かりやすく知らせる。 ・友達と関わりが生まれる場所や遊具を選ぶ。	・意欲を受け止め、めあてが持てるように提案したり、試したり工夫したりできる場と時間を、時には他学級の担任と連携し確保する。	・戸外や小学校運動場で思い切り体を動かす機会を設ける。 ・季節の行事や自然に親しめるように、自然物や子どもの作品を飾ったりする。 ・保育室の椅子を「5」ずつ置いたりチケットを数えたりするなど、生活の中で「5」の概念や「1対1対応」が意識できるようにする。＊13	・園行事など予定をカレンダーに書いたり「あと何日」と数えたりして、主体的・意欲的に生活できるようにする。
	連携	家庭	・登降園・所時に家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えたりして、保護者との信頼関係を作る。日々の子どもの姿や活動のねらいをホームページや園だよりなどで伝え、共に成長を喜ぶ。 ・個人懇談で家庭の背景を知り、保護者が必要な支援を知る。・活動のねらいや子どもの様子、連絡事項を個別に、また具体的に知らせる。＊10 ・学級懇談会で子どもたちの園の教育方針や学級経営について伝える。 ・展示食とレシピを掲示し、家庭でもいろいろな食材に触れられるようにする。 ・就学支援シート説明会を行い、保護者が安心して進学について考えられるようにする。	・給食のメニューを通して親子でクッキングをして関わりを楽しみ、食材を知ったりする。（保育所では炊飯と味噌汁づくり）	・運動会や生活発表会など保護者が参観する行事では取組の様子やねらい、過程での育ちを伝える。 ・給食のメニューを通して親子でクッキングをして関わりを楽しみ、食材を知ったりする。（保育所では炊飯と味噌汁づくり）	・学級懇談会で子どもたちの成長の姿を伝え、保護者が安心して就学準備ができるようにする。 ・生活習慣の自立について保護者と確認し、小学校生活での戸惑いを少なくできるよう、家庭での対応の仕方など保護者と連携する。
		幼保小	・入学当初の授業参観に参加し、1年生の様子を知る。 ・幼保で顔合わせを行い、新しい友達を知る。 ・小学校運動場で走ったりして、学校施設に親しみをもつ。 ・ミニ運動会で運動会の遊びを紹介したり一緒にしたりして、いろいろな友達や先生と関わることを楽しむ。 ・小学校の音楽発表会の招待状や手作り楽器をもらって、発表会で楽器遊びを楽しみ、幼保小の一体感を感じる。	・入学当初の授業参観に参加し、1年生の様子を知る。 ・授業参観や保育参観を行い、それぞれの教育について知る。 ・砂場の交流では事前にねらいと環境について共有する。 ・交流しながら迷いがあれば、確認しあう。＊11 ・運動会後の交流保育では事前にねらいと環境、司会担当など進め方について話し合う。事後に育ちや改善点について出し合い次年度につなげる。	・入学当初の授業参観に参加し、1年生の様子を知る。 ・授業参観や保育参観を行い、それぞれの教育について知る。 ・砂場の交流では事前にねらいと環境について共有する。 ・交流しながら迷いがあれば、確認しあう。＊11 ・運動会後の交流保育では事前にねらいと環境、司会担当など進め方について話し合う。事後に育ちや改善点について出し合い次年度につなげる。	・小学校や保育所のDVDを視聴し新しい友達や生活の仕方を知ったりして、学校生活に期待を持つ。
		個別の支援	・学級全体の活動では、全員そろってから、全体への話を担任から聞き、その後個別にその内容を伝える。	・ごっこ遊びなど参加しにくい子どもには、役割や言葉などはっきりさせて、加配教員と連携して参加しやすい援助をする。	・遊びのルールが理解できにくい子どもには、図を用いるなど視覚的に説明したり、その場で伝えたりする。 ・劇遊びでは参加しにくい子どもが参加しやすい場面を作り、ストーリーを子どもと考え創作する。	・就学への不安感を持つ子どもには、遊びや生活で自信を持っている場面を見つけ認め、自分の良さに気づくことができるように関わる。DVD視聴で学校生活の様子を知り、学級全員で期待感が共有できるようにする。

＊「園・所で展開される活動 /小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成」内に幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿を略して入れている。**健**: 健康な心と体 **自立**: 自立心 **協**: 協同性 **道**: 道徳性・規範意識の芽生え **社**: 社会生活との関わり **思**: 思考力の芽生え**自然**: 自然との関わり・生命尊重

数: 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 **言**: 言葉による伝え合い **感**: 豊かな感性と表現

＊「連携」の「家庭」の四角の枠は家庭と連携して身につけたい生活習慣、経験、「幼保小」の四角の枠は経験させたい内容

		5 歳児 4 月 5 月	6 月 7 月 8 月	9 月 10 月 11 月 12 月	1 月 2 月 3 月
ねらい		【新しい環境に安心、年長になった喜びと自覚】 友達と関わって遊ぶ中で、思いを出し合いながら遊ぶことを楽しむ。 年長児になった喜びを感じ、自覚をもち、生活を進めようとする。	【遊び、友達の広がり、目的の共有】 自分のめあてや友達と共通のめあてをもったり、遊びを進めたりすることを楽しむ。 小学生との交流を通して、小学校への憧れや進学への期待を感じる。		【皆で楽しむ満足感、小学校への期待】 共通の目的をもって協同して遊びを進め、満足感を味わう。 自分や友達の成長を感じ、1 年生になる期待をもつ。
内 容		【生活】新しい環境での生活の仕方がわかり、安心して園生活を楽しむ。 【友達】年長児になった自覚をもち、異年齢児とのふれあいや関わりを楽しむ。 気の合う友達と思いや考えを伝えあい、共通の目的をもって遊ぶ楽しさを味わう。 友達とルールを考えたり、守ったりしてルールのある遊びを楽しむ。	【生活】自分の思いや考えを言葉で伝え、クラスで話し合い、遊びを進める楽しさを味わう。 【友達】友達と共通のめあてをもち、力を合わせたり、役割を分担したりして遊ぶことを楽しむ。		【生活】これまでの生活を振り返ったり、年中児に生活を引き継い だりして成長を自覚し、自信と期待をもって修了する。 【友達】友達と共通の目的に向かって力を合わせて遊びに取り組み、達成感や充実感を味わう。
連携	学校	小学校と就学前施設の担任同士で、小学生との交流について、具体的な計画をする。		小学校のフェスティバルや交流活動などに参加し小学生との関わりを楽しむことができる様に、事前、事後に担任同士で打ち合わせをする。	安心して進学することができるように一人一人の育ちを共有すると共に小学校に伝える。次年度の交流の計画を立てる。
	家庭	家庭訪問や懇談会で保護者の思いや子どもの家庭での過ごし方などを把握し、遊びやかかわりに生かす。		子ども同士のかかわりの深まりとともに思いのぶつかり合いなどもみられるが、学びや成長につながることを伝え、理解につなげる。	一人一人の子どもの成長を共に喜び、保護者も小学校への安心感と期待を持つことができるようにする。
すすんで学ぶ	幼児	身近な環境に興味をもって関わり、繰り返しやってみようとする	色水などの素材での遊びなどで友達に思いを伝え、繰り返し様々な方法を試しながら遊ぶ。様々な環境に自分からかかわって遊ぶ。【思考力の芽生え】	どうすればみんなで思いを合わせて遊びを進めていくことができるのか、自分の思いを伝える。【道徳性・規範意識の芽生え】 やりたいことに強い思いをもち、より本物らしくなど、自分のイメージに近づくことができるよう友達と思いや考えを伝え合いながら工夫しようとする。【協同性】	経験を活かして、より自分の思いを実現できるものを工夫してつくったり、友達刺激を取り入れながら、試行錯誤したりする。【豊かな感性と表現】
	教師	子供が進める遊びを受け止めながらイメージや思いを実現できるように方向付けや提案をしていく。		自分のめあてをもって遊ぶことができるように思いを確かめたり、励ましたり、認めたりして関わる	自分なりに感じたことや考えたことが集団の中で生かされるよう助言したりする。
	環境	今まで経験したことがある材料薬具に加え、遊びの様子を見ながら新たなものを考えて出したり、場を作ったりする。		目的をもって製作したり協力して遊んだりできる場や要求に応じられる材料や用具、器具などを用意する。	イメージを膨らませて表現したくなるように絵本や図鑑など子どもの要求に合わせて用意する。
楽しくかかわる	幼児	友達や先生、様々な人・もの・ことに関わろうとする	友達と一緒に、互いのしたいことを受け入れながら、遊びを進める。 【言葉による伝えあい】 動植物の世話など、自然環境にふれ、関わって遊ぶ。【自然との関わり・生命尊重】	運動会の行事や、交流活動などで関わりをもっている 1 年生や他学年の小学生、他の就学前施設の友達などに思いを馳せ、心を寄せて遊んだり、楽しさや嬉しさを共有したりする。地域のゲストティチャーとの関わりを楽しむ。【社会生活との関り】	お正月の遊びや楽器遊び、劇ごっこ遊びなどで、これまであまり関わりがなかった友達とも積極的に関わり、同じ目的をもち協力して一緒に遊ぶことを楽しむ。 【数量・図形、文字等への関心・感覚】 これまでの生活でのいろいろな人との関わりを思い起こし、感謝の気持ちにつながるように投げ掛けたり、思いを受け止めたりする。
	教師	教師と一緒に遊びながら一人一人の興味・関心を捉え、信頼関係を気づいていく。		共通の目的に向かって遊びに取り組めるよう相談の場をつくったり振り返ったりする時間をもち、それぞれの思いをつないでいく。	
	環境	子ども同士がかかわって自分たちで遊びを進めることができるように遊戯室や園庭・校庭などを積極的に活用する。		1 年生に親しみをもち一緒に遊ぶ楽しさが感じられるよう、園内外での交流保育の機会を設け、交流を楽しみにすることができるように事前に手紙などをやり取りし、掲示しておく。	カードゲームなど、遊びを通して文字や数量、形や色に興味を持つことができるような場を設ける。
自分でできる	幼児	安心して、自分の思いを十分に表そうとする	自分の思いだけでなく、友達の思いも受け入れながら遊びを楽しんでいくことに満足感を得る。年少児や年中児に親しみをもって関わる、【自立心】	運動会の遊びなど継続して遊ぶ中で力を出しきることの満足感を感じ、また、交流など新たな関わりを広がりを楽しみ、そのことが自信となり、苦手なこともやってみるなど生活を広げる。【健康な心と体】 自分が実現したことを、友達や小学生に認めてもらうことに喜びを感じたり、実現したいことが達成できた満足感を味わったりする。【社会生活との関り】	クラスみんなで同じ思いをもち、みんなで満足感や達成感を味わう。【自立心】 力を発揮して実現できたことに自信を感じ、進学への期待や意欲をもつ。【自立心】
	教師	年長児になった喜びに共感し、自分でしようとする姿勢や異年齢児に思いを寄せて自分なりに関わろうとする姿を認める。		たくさんの友達の中で力が発揮できているか、役割分担をしながら遊びを展開できているかを把握し、助言をしたり、認めたりする。	一人一人の力を十分発揮し、クラスの一員としてやり遂げた満足感や達成感が得られるように認めたり、励ましたりする。
	環境	年長の自覚がもてるように、担任間で連携して異年齢との関わりのかきかけをつくる。		体を十分動かして遊ぶ楽しさが味わえるように運動遊具を配置したり、子どもが遊具や用具を自分たちで出し入れしたり、遊びの場をつくったりできるように場を整えたりする。	進学への安心感と期待感に繋がるよう、1 年生を始め小学生との関わりが楽しめるような時間や場を設ける。
個別の支援		友達と関わりを持ちにくい子どもには、思いの橋渡しをしたり、代弁したりして関わりを楽しめるようにする。 友達に認められる嬉しさを感じ、関わって遊ぶ楽しさを感じられるよう、友達に認められる機会を設ける。		クラスみんなでの活動に入りにくい子どもには、その子どもがやりたいことや思いを受け止めクラスに共有したり、楽しんでいる様子を見せたりなど、興味をもてるよう関わる。友達だけで遊びや生活を進めにくい時は仲裁役として一緒に遊びや生活を共にし、思いや考え、イメージの橋渡しをする	進学への不安を感じる子どもには、これまでの成長を大いに認め自信にすると共に、進学への前向きな言葉をかけ、安心できるよう関わる。

		1年生 4月	5月頃	6月	7月頃	9月10月11月12月	1月2月3月
ねらい		【安心】 学校生活に慣れ、安心して登校する。 教師や友達と仲良くなり、安心して学校生活を過ごす。 教師や友達に親しみをもち、安心感のある学校生活を過ごす。 就学前施設で身に付けた力を発揮し、自信をもつ。		【成長】 →集団生活のルールが分かり、集団生活に慣れる。 →クラスや学年、学校が自分の居場所となり、安心して過ごす。 →自分のことが自分ででき、みんなと仲良く学校生活を送る。 →学校生活がほぼ分かり、自信をもって学習や生活に取り組む。		【自立】 →自信をもって小学校生活を送る。 ・自らすすんで学ぶ ・みんなと楽しくかかわる ・やれることは自分でできる	
内 容		【生活】学校での生活の仕方が分かり、安心してすごす。（生活・学習・給食・遊び・当番活動・登下校など） 小学校生活の新たなルールが分かり、安心して自分で取り組もうとする。 集団生活のルールが分かり、穏やかな気持ちで過ごすことができる。 【友達】教師や友達と一緒に学校生活を送ることを楽しむ。 知っている友達との関係を大切にし、新たな友達とも関わろうとする。→クラスの友達の名前を覚え、関わりを広げる。 学校の様子が分かり、友達と共に活動することを楽しむ。 →仲の良い友達の輪を広げながら、学習や遊び、生活が充実する。		→生活の仕方 で分かることが増え、より安心することで関わりを広げる。 →自分のことが自分でできることに自信をもち、新しい環境に自ら働きかけ、関わる。			
連携	園	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえる。 園で慣れ親しんだ歌や手遊び等を取り入れ、楽しみ、安心し、意欲につなげる。 就学前施設の教師から情報を得て、指導に生かす。 就学前施設の教師に小学校での様子（学習・生活）を見てもらい、情報を共有して指導に生かす。 就学前施設の担任と一緒に、交流について具体的な計画をたてる。		交流の事前・事後で担任同士が打ち合わせをする。		次年度の交流について計画をたてる。	
	家庭	不安な状況等は早目に伝えてもらうようあらかじめ話しておく。連絡帳を活用したり、直接話したりして、安心してもらう。 ほめ電話（ほめTel）で、児童の様子を伝えて安心してもらう。					
すすんで学ぶ	児童	身近な環境に興味をもつて関わり、試したり考えたりする。		自分の見たい・知りたいところに探検する。 身体や感覚を働かせて、思いきり遊ぶ。 就学前施設での経験を生かして、遊んだり学んだりする。		→学校では？やふしぎ？を見つける。 →主体的に自己を発揮しながら学びに向かう。 →自ら友達や環境に興味をもつて関わり、遊んだり勉強したりする。	
	教師	幼児期の発達特性を知り、児童の意欲が高まるように配慮する。 児童の興味・関心をつかみ、主体的に学習（生活）できるようにする。		→生活科を中心に、授業の流れ（しかけ）を工夫する。 →生活科を中心に、合科的・関連的な指導の工夫をする。		→意欲的に遊びや学習に取り組む姿を認め、より主体的な意欲につなげる。	
	環境	学習や生活、遊びのスタイル&ストーリー（生活習慣・学習習慣・遊びの場・給食の準備や片付けなど）を大切にしたい環境や一日の流れをつくる。 学習形態を工夫し、共働的に学べるようにする。（グループ机、広いスペースの活用など）		学習に集中できるようにする。（すっきり、はっきり、視覚的）学習のきっかけが生まれるようにする。（しかけ、学びの足跡など）			
楽しくかかわる	児童	さまざまな人・もの・ことと出会い、自分の思いを表現して関わり合う。		知っている友達と安心して関わる。 担任・学年の先生と仲良くなる。 友達と挨拶したり、名前を覚えたり、遊んだりすることを喜ぶ。		→知っている友達から少しずつ友達の輪を広げる。 →少しずつ教師や地域の人も関わり、楽しむ。 →なかよしの仲間と活発に遊んだり、みんなで勉強したりする。	
	教師	保育者の関わり方を知り、児童と一緒に遊び、信頼関係を築く。 新しい教師や友達、環境の変化に戸惑う児童に寄り添い、関わる。 園児さんとの楽しい交流を計画する。		→全教職員が関わり、信頼関係を築く。 →友達関係の様子を見て、子供同士をつなぐ支援をする。 →交流への思いが高まるような活動を考える。（手紙など）		→集団のルールの必要性を伝え、自ら守ろうとする姿を認める。 →みんなと関わり、がんばることの楽しさを感じられるようにする。 →交流での経験を生かして1年生を迎える気持ちが高まるようにする。	
	環境	教師や友達、他学年の児童、地域の人々と関わりがもてるような環境や機会を意図的に設定する。 （全教職員と一緒に楽しむ・温かく見守る・視線で話を聞く・笑顔で迎えるなど）（他学年児童と集団登校・集会活動・たてわり活動など）（家庭や地域の人々の見守り活動）					
自分でできる	児童	安心感を持ち、自分でできる喜びを感じ、ありのままの自分を発揮する。		設園でしていた遊びで遊ぶ。 就学前施設での経験を話したり、伝えたりする。 自分でできることは、自分でする。		→少しがんばればできることにチャレンジし、できた喜びを味わう。 →友達のステキを見つけ、伝え合う。 →自分がかんばったことやできるようになったことを考えていく。	
	教師	幼児期で身に付けた力を発揮できるようにする。 1年生になった喜びを受け止めつつ、安心感がもてるように関わる。		→不安を表す時期の個人差を受け止め、安心できるように関わる。 →自分でできるようになっていく姿を認める。		→単元の終末のふり返りを大切にする。 →できるようになったこと、ついた力を知らせ、認める。	
	環境	見通しをもって生活できるようにする。（1日の流れ・朝の支度の手順・当番などの役割表示） 生活上のきまり等を視覚的に理解できるようにする。（道具箱の整理整頓・靴のそろえ方など）		自分で選択して活動できるようにする。（教室内の遊びコーナー・オープンスペースの活用など）			
個別の支援		不安な姿を見せる児童には個別に関わり、安心できるようにする。 できるだけ複数の教員を配置し、個人・学級に目が行き届くようにする。 生活の仕方（トイレ・手洗い等）に戸惑う児童には丁寧に関わる。 支援が必要な児童には、担任を中心に、複数の教員が関わるようにする。 児童の遊びや人間関係を観察し、うまくかかわれない児童には積極的に声かけをして、一緒にグループに入れるようにする。					

御所南ブロック	5 歳 児											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
目指す子どもの姿	遊びのおもしろさ、楽しさを感じながら好きなことを満足するまで楽しむ											
	自分と向き合って考える											
	友達と協力して考える											
	互いの考えを尊重し、共に考える											
	友達と協同して考えを広げ、深める											
	小学校に期待をもつ											
子どもたちの経験・遊び	◎園生活の中で自分の好きな遊びをみつけて、満足いくまで十分に取り組む		◎自分の思いに向き合い、試したり工夫したりする ◎友達の様々な思いに気づき、友達の違う思いと出し合って葛藤する		◎興味のあることをもとに(⑧)、好きな遊びを友達と一緒に楽しみ、アイデアを出し合って遊びを発展させたり広げていったりして、実現(⑧)する		◎友達と互いの考えを認め合い、折り合い、協力しあって刺激を受け合いながら(⑩)共に遊びをすすめ、満足感や達成感を感じ(⑭)る		◎自分の意見も出ししながら友達の意見を聞き、協同して遊びを進める ◎小学校との共通点を感じたり見つけたりして(⑰⑳)小学校に期待をもつ			
思考力を育む先生の関わり	◎子どもの思いを感じ取って共感し(①)、引き出したり共に探ったりして興味のあることを見つけ、期待をもって生活できるようにする(全) ◎先生も一緒に遊びを楽しみ、子どもが安心したり信頼関係を築いたりする(全) ◎子どもの興味のあることや好きなことを取り入れ、(全)好きな遊びを十分に楽しめるようにする		◎相手の思いを代弁し、様々な思いを感じ取る ◎子どもの多様な考えを受け止める ◎子どもの思いに共感し(②)、自分で気づいたり(③)、考えたり、友達との関わりを持って共に進めることができ(⑤⑦)るように見守り、肯定的に受け止める		◎子どもが困ったり思いが通らなかったりした際は、互いに(⑪)意見を言い合える機会をもち、自分の思いを言葉にして伝えられるようにする ◎アイデアが実現していけるような方法を先生も共に考えたり、これまでの経験を活かしたり(⑧④⑮⑯)、子ども達のアイデアを広げたりつなげたり(⑨)してイメージを共有(⑫)する		◎意見を聞き合える機会をもち、一人ひとりのアイデアを活かして遊びが展開していくようにしたり(⑲)、自分の思いと共に友達の意見に納得して折り合えるようにしたりする		◎楽しいことも悲しいことも様々な感情を共有することで深めていけるようにする ◎小学校に安心し、期待をもてるように、小学校で知っている物や人を見つけたやつながったり(⑰⑳)検診・半日入学・交流)する			
思考力を育む環境構成	◎多様な遊びが実現できるようにこれまでも使用してきた物や遊びに必要な物(①)を準備する ◎遊びをじっくりと楽しむ時間と空間を用意する		◎自分なりにじっくりと試行錯誤(⑤)したり工夫したりできるようにする空間や時間を用意する ◎遊びから出た必要な物、本などを準備する(②③)		◎子どもたち自身が環境構成に参画できるような時間と空間を確保する ◎アイデアを共有できるように遊びの場や機会、道具などを準備する(⑦⑧⑨⑪)		◎友達同士で(⑱)様々なアイデアが長期的な視点で実現でき遊び仲間の拠点となる場(⑱)、子どもの時間と空間を確保する		◎クラスなど集団で取り組み、自分と友達の成長を感じ、みんなで相談しながら進められる場を用意する。 ◎小学校への期待をもてるような交流の機会をつくる			
子どもの交流	ごしょであおう！											

竹田ブロック 架け橋カリキュラム

研究主題（期待する子ども像）「夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子」

期・月			4	5
望ましい			安心・安定感	
発達の姿			新しい環境（学校の様子や新しい人間関係など）に慣れ、安心・安定感をもって学校生活を送る。	
園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成			学校生活の仕方を知る。（登下校・生活・学習・遊び・当番・給食・掃除など） 【自立心】【協同性】【社会生活との関り】 学校生活・集団生活のルールやマナーを知る。【道徳性・規範意識の芽生え】	みんなとなかよし・学校探検・【協同性】【社会生活との関り】 なかよしいっぱい大作戦【社会生活との関り】【言葉による伝え合い】 一年生を迎える会【社会生活との関り】【豊かな感性と表現】
安心・安定感を育む	つながり	児童	友だちにあいさつしたり自己紹介をしたりしお互いに興味を持つ。 幼稚園や保育所で経験した遊びを一緒に楽しむ。	
		支援	家庭や幼稚園・保育所での様子を知り、遊びや会話を通して信頼関係を築く。 児童の顔と名前を覚える。 笑顔で <u>ゆっくりと肯定的な言葉で話し</u> 、あたたかい関わり方を心がける。 幼稚園や保育所で経験した遊び・ <u>読み聞かせ・歌</u> などを取り入れる。 門や教室で、笑顔で明るく名前を呼んで迎える。 環境の変化に戸惑う児童に寄り添い、家庭と連絡を取りながらかかわる。	教師も一緒に楽しむことで、緊張感を和らげる。 直接的に触れ合って、体を動かして遊ぶことなど<u>毎日ワクワクするような活動を取り入れ</u>、安心してつながりをもつ機会をつくる。 <u>小さなことでもほめ、がんばりを保護者に伝える。保護者の頑張りも認め、評価する。否定的に言わない。言葉遣いに気を付け、ゆっくりと話す。</u>
		環境	学校教育目標を伝える。 学級目標を設定し、伝える。 幼稚園や保育所での経験を生かした学習や遊びの場を設定する。	
	主体性	児童	幼稚園や保育所での経験を生かし、生活・学習を進める。	担任に自分の思いを伝える。
		支援	児童の特性を知り、児童の意欲が高まるように配慮する。 児童の興味・関心をつかみ、思いに共感しながら話を聞くようにする。 児童の実態に合わせて、柔軟に時間割を組む（ <u>20分単位で考える</u> ）。	ストーリー性をもたせるなどの工夫をすることでスムーズに取り組むことができる。 児童の集中力を考慮し、学習・活動を20分程度毎のまとまりで考える。
		環境	絵や写真などの視覚的な指示を使って安心感をもてるような場を設定する。 一日の生活や学習の基本的な流れを確立する。	約束や進め方などは、伝え共有した後に自分で確認できるように掲示等の工夫を行う。（ <u>日直・給食当番・そうじ当番など</u> ）
	支援・連携	家庭	見通し・計画性をもってもらえるように、前もって学習や活動についての連絡をしておく。 児童の情報を家庭から得たり、 <u>学校は子どものよいところを知っていることを発信たりする。</u> （学校だより・学級通信・授業参観・学級懇談会）	家庭との連絡ツールを工夫する。（親と交換日記など） （家庭訪問） <u>設定してある家庭訪問だけでなく、保護者に連絡や伝えたいこと・渡したいものがあるなどの場合は、積極的に家庭訪問するようにする。</u>
		幼保小	幼保小連絡会で新入学児童の情報を交流する。 幼保顔合わせ（幼保） 5歳児に担任だった先生に授業参観してもらい1年生での様子を知ってもらう。	<u>にこにこタイム顔合せ（幼保小）…砂場交流</u> <u>幼稚園ごみゼロ活動（幼小）…小学校不参加</u>
	個への支援		一人一人の思いや背景、内面をしっかりと見つめ、その不安や緊張感を理解し、様々な子どもの姿を受け入れる。 困っている児童の家庭に連絡・相談し、次につなげる。	困りが予想される家庭に前もって連絡をし、家庭での協力を得る。 困っている児童には総合育成支援員や学生ボランティアなどが一緒に手伝う。 <u>できていないことや困っていることがあっても「〇〇さんがいるだけで、学校に来てくれるだけで花丸!」ということを伝える。</u>

研究主題（期待する子ども像）「夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子」

期・月			6	7	8
望ましい			安心・安定感・仲間づくり(小学校の一員という意識付け)・達成感		
発達の姿			身近な環境(人や施設)と関わり楽しく安心して遊んだり生活したりする。		
園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成			学校生活の仕方に慣れる。【自立心】【協同性】【社会生活との関り】 さかせたいなわたしのはな【自然との関り・生命尊重】 くすのきフェスティバル【協同性】【社会生活との関り】…未実施	夏だどび出そう【自然との関り・生命尊重】 水遊び【健康な心と体】【自立心】 習熟度テスト【数量や図形 標識や文字などへの関心・感覚】 わくわくプラン【社会生活との関り】【豊かな感性と表現】【思考力の芽生え】	
安心・安定感を育む	つながり	児童	気の合う友だちと仲良く遊ぶ。 クラスの友だちと一緒に学習する。ペアやグループで達成感や喜びを共有する。	クイズを出し合ったりインタビューしたり、一方的ではない交流ができるようにする。	
		支援	担任以外の教職員もあたたかく積極的に関わり信頼関係を築く。	子ども同士をつなぐ支援を行う。(音楽で輪になって歌ったりリズム遊びしたりなど) 集団で遊んだり学習したりする楽しさを感じられるようにする。 (役割を決めて音読発表会など) 上級生と関わる取組を設定し橋渡しをする。…未実施	
		環境	学習の中に共同学習・ペア学習の場を設定する。(算数でミニ先生をするなど)		
	主体性	児童	自分の読みたい本を探し、読書を進める。(さわやかタイム) ペアで自分の思いを伝え合う。「なぜ」「どうして」を見つける。	色を塗るなどのかんたんな形で学習・活動のふり返しをする。 目標を設定して、達成に向けて粘り強く取り組む。(計算カードなど)	
		支援	生活や学習の中に自分で選択する場を設定する。 子どもの意識や思いの流れを大切に授業を構成する。	児童のおもいどねらいをすり合わせて活動内容を吟味する。 「なぜ」「どうして」を探し、解決していく学習を仕組む。(プレわくわくプラン*①など) できるようになったことを実感できるような声かけやしくみ(マット運動でシールなど)を設定する。	
		環境	学習・活動に関連する並行読書を用意する。(国語科「くちばし」) 主体性を高め合える・刺激し合えるような学習形態(共同的な形等)にする。	自分の〇〇という思いで意欲的にかかわったり扱ったりできるよう、個別の場所・物(水鉄砲など)を用意する。 「なぜ」「どうして」が見つかりやすいような比較対象を準備しておく。	
	支援・連携	家庭	子どもの成果と課題を伝え、今後につなげる。 協力してもらえ家庭には、家でも取り組んでもらう。	家庭学習が難しい場合は、放課後に一緒に取り組むようにする。 個人懇談会	
		幼保小	幼稚園や保育所に小学校教員が顔を出し、児童に覚えてもらう。 幼稚園参観で幼稚園の様子を知る。 プール招待(幼保小)…幼のみ くすのきフェスティバル(幼保小)…未実施 幼保小連絡会で情報交換を行う(定期的に年4～5回)。	小学校授業参観で1年生の様子を知ってもらう。 保育所参観で保育所の様子を知る。	
	個への支援		疑問や不安の出し方を伝える。	自分の姿をふり返し、次につなげる。困った時は困ったと自分で言えるようにする。	

*①…夏休みの課題である「わくわくプラン(自由研究)」に向けて各学年が授業で行う取組

研究主題（期待する子ども像）「夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子」

期・月			9	10	11	12
望ましい			自立・充実・協力			
発達の姿			身近な環境（人や施設）や教材（物・生き物）と関わりを深め、気持ちの自己調整をしながら、学校生活を送る。		クラスや学年共通の目的に向けて学習・活動に協力しながら取り組む。	
園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成			生活調べ【健康な心と体】【自立心】 わくわくプラン【言葉による伝え合い】 生きものとなかよし【自然との関わり・生命尊重】		1・2年合同校外学習【自然との関わり・生命尊重】【社会生活との関わり】 みんなのこにこ大作戦【社会生活との関わり】【協同性】【健康な心と体】 音楽発表会【協同性】【豊かな感性と表現】 キズナ作文【協同性】【豊かな感性と表現】【社会生活との関わり】	
安心・安定感を育む	つながり	児童	学年の友だちと仲良く学習や活動をしたり遊んだりする。 自分の思いと相手意識をつなぎながら学習・活動を進める。		クラスや学年で達成感や喜びを共有する。 友だちのいいところを見つける。	
		支援	相手意識がもてるような声かけをする。 クラスや学年などの他とのつながりを大切にできるよう集団の高まりやいいところを積極的に取り上げ褒める。 新たな気付きをし、次の活動への視点につなげるため、子どものノートや学習カードに担任のコメントを書く。 上級生の学習成果を見る場を設定する。		児童のいいところを積極的に取り上げ、広める。 お手本にしてほしい上級生の言動に注目させる。 家庭生活に関わる活動を設定する。 学校外の人たちとの関りにも目を向け、公共のルールやマナーを意識するようにする。	
		環境	見つけた友だちのいいところを広げられるような場を設定する。(帰りの会、国語・図工などの作品交流などで) 学習や活動のめあて・ふり返りを提示する。		学習・活動のふりかえりを掲示し共有する。	
	主体性	児童	健康的な生活を意識する。 幼稚園のウサギなどの生き物に親しみをもって触れたり世話をしたりする。 見つけた「なぜ」「どうして」を調べたり確かめたりしていく。		グループで自分の思いを伝え合う。 上級生に自分の思いや考えを伝えながら学習を進める。 友だちと関りながら学ぶ機会をつくるためにペアやグループでの活動を多く取り入れる。 クラスの友達を楽しませることやクラスのためにできることを考えられるようにする。	
		支援	単元に関する幼児期の経験を把握し、生き物は生命をもっていることや成長していることに気付くことができるように、生き物自身だけではなく、育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかける。 早寝・早起き・あそびなどの健康的な生活の重要性を伝える。 ゲストティーチャーやオリジナルキャラクターで意欲を高める。		自分ひとりでも進められるような学習・活動方法を取り入れる。	
		環境	学習や活動にめあてをもって取り組む。 生き物に触れたり世話をしたりする活動の場を設定する 丸型の水槽を用意し、友達と一緒に生き物が見やすいようにする。 学習・活動に関連する並行読書(幼稚園の絵本など)や 生き物を用意し、身近なところに置いておく。		学習・活動後に感じたことを言葉で記録する。 いろいろな物に興味・関心が持てるように可能な限り多種類の教材等を用意する。 季節に応じた場や素材を身近に置く。 児童自身で学習・活動できるように動画教材等を準備する。	
	支援・連携	家庭	生活リズムを把握し、健康的な生活を意識してもらう。 生活調べ		子どもやクラスの様子を知ってもらい、人権意識を深める。 授業参観・ほっこり子育て広場	
		幼保小	幼稚園・保育所運動会（運動会に小学校の教員が出場し、保護者にも小学校とのつながりを感じてもらう。） ミニ運動会(幼保) 幼保小連絡会で情報交換を行う。 ウサギを通したつながり(感謝の気持ち)		就学時健康診断(来年度入学予定の児童の様子を知る。) 音楽発表会の案内や楽器を作り、保育所・幼稚園に届けご招待する(幼保小)。音楽発表会で一緒に楽器を鳴らし、一体感を感じる。 ぐんぐん広場(幼保)	
		個への	生活の乱れから遅刻しがちな児童等の家庭へは、生活調べの取組前後に連絡をし、意識的に進めてもらう。 宿題・学習支援(放課後・スキルタイム)		進んで取り組んでいる姿を言葉で伝え、達成感を高められるようにする。	

	支援		
--	----	--	--

研究主題（期待する子ども像） 「夢に向かい、つながりの中で主体的に生きていこうとする子」

期・月			1	2	3
望ましい 発達の姿			協同・自信・期待		
			自分たちの生活や学習を振り返り、これまで支えてくれた人に感謝の気持ちを持ち、さらに成長するために意欲的に活動する。		
園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成			ふゆとともだち【自然との関わり・生命尊重】 もうすぐ みんな 2年生【協同性】【自立心】【社会生活との関わり】 TAKEDAフレンドフォーラム【協同性】【豊かな感性と表現】【社会生活との関わり】 にこにこタイム【協同性】【言葉による伝え合い】		
安心・安定感を育む	つながり	児童	友だち同士でこの1年間を振り返り、友だちの成長を知るとともにクラスや学年の成長に気付く。 5歳児の子どもたちとの交流（にこにこタイム）を通して自分の成長に気付き、進級への期待が高まるようにする。		
		支援	自分自身や学級の成長が実感できるような活動を設定する。 自信や進級への期待が高まるように、新1年生の存在に気付けるようにする。		
		環境	1年間の振り返りができるように行事等に撮った写真を掲示しておく。		
	主体性	児童	これまでの学習経験を生かし、比較をしたり、違いを感じたりしながら学習を進める。		
		支援	もうすぐ2年生に進級することや新1年生のよき見本となってほしいことを伝える。 入学からこれまで上級生や周囲の大人が支えてくれたことに気付けるようにする。		
		環境	季節の違いに気付くことができる図鑑等を置いておく。 これまでの学習の足跡がわかる学習カード等がすぐに見ることができるようにしておく。		
	支援・連携	家庭	子どもたちの成長が伝わる参観・懇談会を設定する。		
		幼保小	新入学予定児童や家庭の情報を得る。 幼稚園や保育所で経験していることについて知り、次年度の計画を立てる。 にこにこタイム（幼保小） 子ども体操教室（幼保小） 授業参観にて1年間の成長を知ってもらう。		
	個への支援		成長した姿を共有し、次年度への期待を高める。		